



県内初のプロスポーツチーム誕生を目指す 「奈良にプロバスケットボールチームをつくる会」

2005年11月、日本初のプロバスケットボールリーグ「bjリーグ」が6チームでスタート。以来、全国各地からの参戦が相次ぎ、今シーズンは20府県19チームとなり、まさに地域と共に地方から発展したプロリーグである。

奈良においても、リーグへの新規参入を目指す組織「奈良にプロバスケットボールチームをつくる会」（ナラ Project：略称ナラプロ）が立ち上がり、積極的な活動が続いている。代表の加藤真治氏は、bjリーグ発足当初からのチーム「仙台89ERS（エイティナイナーズ）」の創設に携わり、以来、チーム運営会社の取締役として長年にわたる経験を持ち、今度は故郷である奈良にもバスケットボールの魅力を広げようとの思いである。県内にはリーグ発足当時から同様の取り組みを行ってきた渡辺淳氏らのグループもあり、加藤氏の活動と合流し、「同つくる会」の発足となった。

ただ、今年3月の東日本大震災により「仙台89ERS」の活動基盤に大きな痛手を受けたことから、現地で立て直しに奔走、今年のエクспанション*への申請は延期を余儀なくされた。現在は、「仙台89ERS」が復活したことから、奈良での活動も本格化し、来年の申請に向けて再び奔走の毎日が始まった。

かつてのプロスポーツは、多くは大都市を基盤にしていた。しかし、全国38チームに及ぶプロサッカーのJリーグにもみられるように、地域密着型に変化してきており、地域復活・振興の切り札として地方でのプロスポーツ熱は高まっている。

プロスポーツは、市民の娯楽であると同時に、「おらが町のプロスポーツチーム」として世代間共通のコミュニケーションの核ともなる求心力を持つ。さらには、集客効果により、交流人口の増加も期待され、「同つくる会」の理念も、

- ①奈良を楽しめるエンターテインメントを創る。
- ②地域の活性化に貢献する。
- ③地域の子供たちに夢を与える。



©SENDAI 89ERS/bj-league

というものである。

bjリーグの各チーム発足にあたり、前身となる社会人チームなどがあったのは稀で、多くはゼロから選手とスポンサーを集めスタートしており、また、1試合の観客数は2,000~3,000人が基準で、奈良にある既存の施設でもスタートが可能である。

バレー、バスケット、サッカーは、世界で最も競技人口の多い三大球技であるが、近年、これらを始め、アイスホッケー、フットサルなどで、地域名を冠したプロチームが次々と誕生し、文化的な魅力のあるまちづくりに貢献している。

（山城 満）

*エクспанション：計画的に制御しながら、参加チーム数を増やすことを指す。英語で「拡張」を意味。

■「奈良にプロバスケットボールチームをつくる会」

<http://www.narapro.net/>